

1 ある日の夕方 散歩に出かけ

ある日の夕方 散歩に出かけ

ブリストル通りを下っていると

歩道の群衆は

まるで 収穫時^{どき}の麦畑

あふれる川辺の

5

鉄橋の下で

恋人が 恋の歌をうたっていた

「恋には終わりはないんだよ

「恋人よ お前を愛し続けるさ

中国とアフリカが会うまで

10

そして 川が山を飛び越えて

鮭が通りでうたうまで

「お前を愛し続けるさ

海がたたまれ 竿に吊るされ乾くまで

そして 七つ星がガーガーと

15

ガチョウのように空を飛ぶまで

「年月はウサギのように去るがいい

俺が腕に抱いているのは

万古不易の太古の花

世界で最初の恋人なのだ」

20

だが 街中のあらゆる時計が

一斉に にぎやかに鳴り出した

「時の翁に騙されるでない

時の翁に勝てる筈も無し

「悪夢の巣穴に身を隠し

25

そこでは 正義が丸裸

時の翁は 暗闇から見張りをし

お前のキスに咳払い

「頭痛と気苦労で

じわじわと命の水は漏れ滴って

30

- 時の翁の気まぐれで
お前の命は今日明日とも知れぬ身なのだ
- 「緑滴る谷間に
血の気を奪う雪が吹き込み
時の翁は お手手つないだ踊りの輪を解き
ダイバーのしなり輝く肉体を消す 35
- 「お前の両手を水に浸け
手首までしっかり浸けて
たらいの中をまじまじと見て
見失ってきたことどもに思いをいたせ 40
- 「食器棚では氷河がガタガタ
ベッドでは砂漠が溜め息をつき
ティーカップの亀裂から奥に
死者の国への道が続く
- 「その国では 乞食が札束を切り
巨人がジャックに媚を売り
白百合少年が大わめき
ジルが仰向けにすってんころり 45
- 「鏡をとくと見るがいい
お前の苦悩をとくと見よ
人生は祝福に値するもの
お前が祝福できぬとも 50
- 「窓辺にじっと立つがいい
熱い涙が溢れ出し
曲がった心で
曲がった隣人を愛せるようになれるのだ」 55
- 夜もだんだんと更けてゆき
恋人たちはどこかへ消えた
街中の時計もすでに鳴り止んで
ただ 深い川だけが流れ続けた 60